

IBOKIN

2021年12月期
第3四半期

決算説明資料

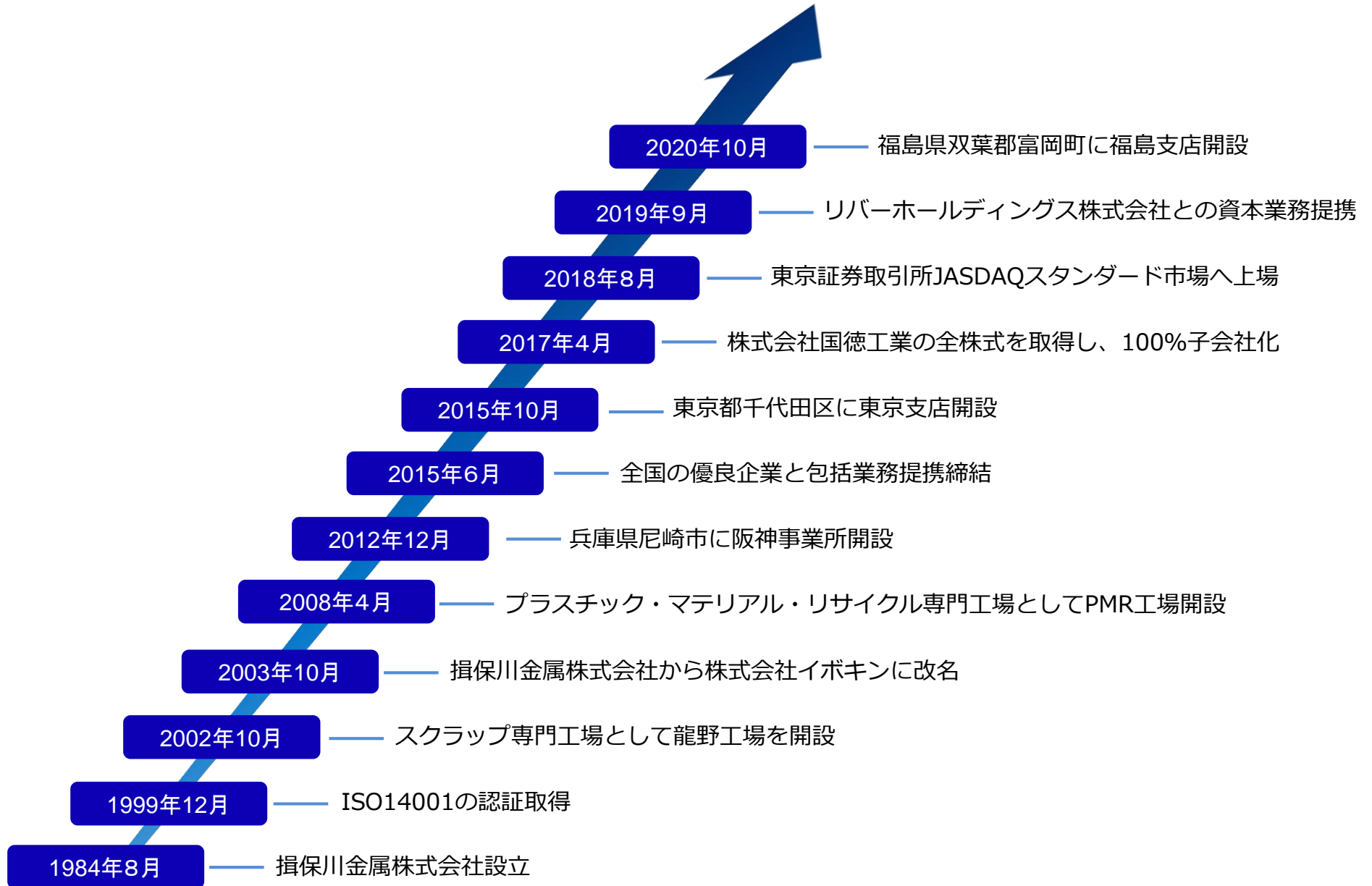
株式会社イボキン

(東証JASDAQ : 5699)

当社の事業内容	2
2021年12月期 第3四半期業績について	10
2021年12月期 通期業績予想について	16
今後の事業展開	18
株主還元	23

当社の事業内容

会社名	株式会社イボキン
代表取締役	高橋 克実
設立	1984年 8月
資本金	130,598千円（2021年9月30日時点）
従業員数	152名（連結：2021年9月30日時点）
所在地	本 社 : 兵庫県たつの市揖保川町正條379 工場・支店 : 本社工場、龍野工場、阪神事業所、東京支店、福島支店、PMR工場、最終処分場
事業内容	解体事業、環境事業及び金属事業による総合リサイクル事業
グループ企業	株式会社国徳工業



事業所所在地（国内事業所：5 営業所：3）



本部及び本社工場



事業所及び営業所



子会社



最終処分場



PMR工場



本部及び本社工場



阪神事業所



福島支店



東京支店



龍野工場



国徳工業



解体事業・環境事業・金属事業を展開

解体事業

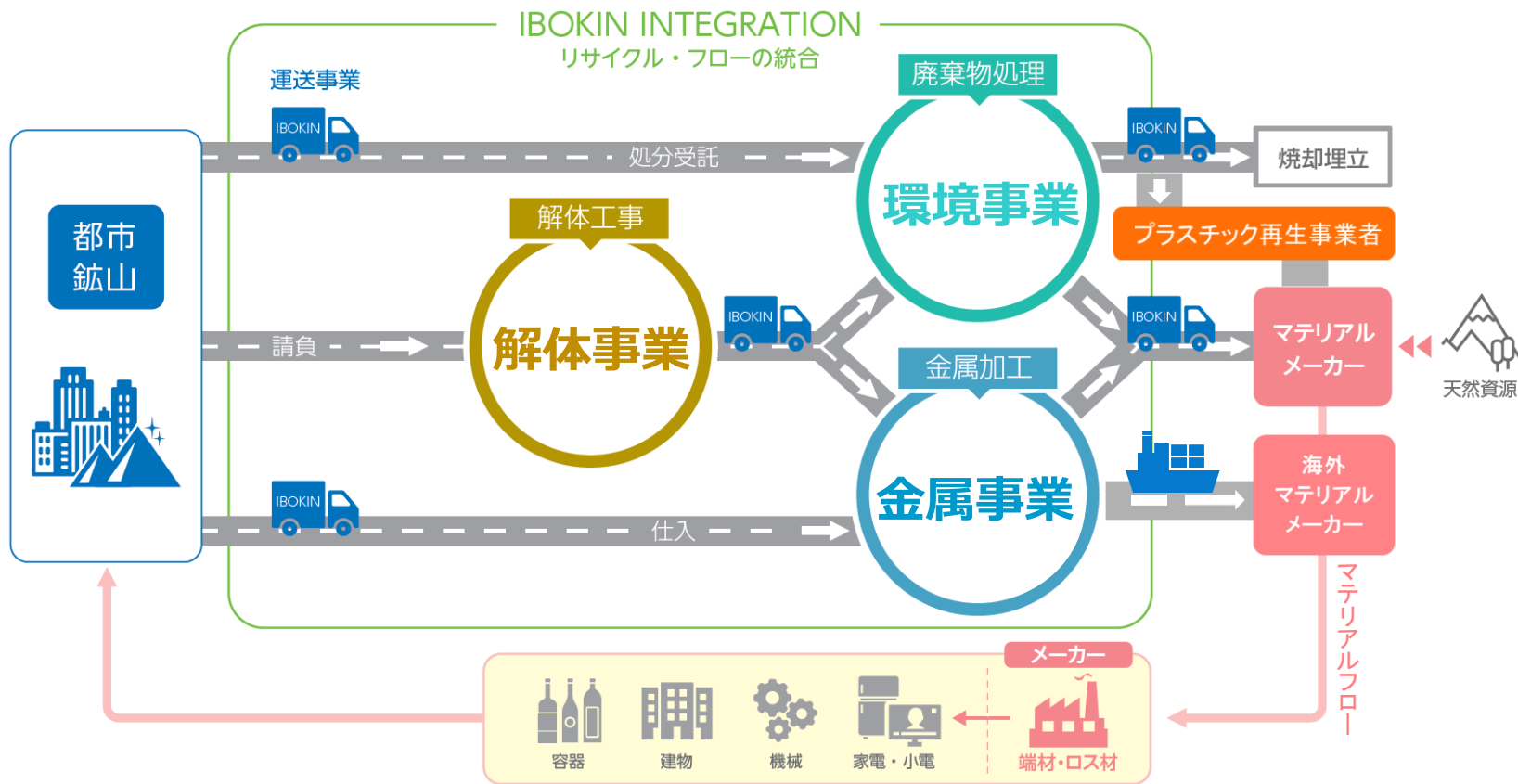
- ◆ 建築構造物やプラント・機械設備の解体・撤去工事

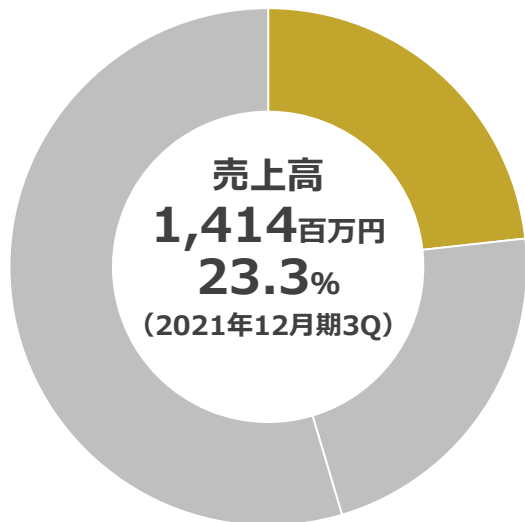
環境事業

- ◆ 木材・プラスチック等の分別・加工
- ◆ 再生資源の製造販売を含むリサイクル
- ◆ 産業廃棄物の収集運搬・中間処理・最終処分

金属事業

- ◆ 鉄・非鉄等の再生加工及び販売
- ◆ 使用済み自動車 (ELV: End of Life Vehicle) の解体による再生資源の販売





- 解体事業は、あらゆる建築構造物を解体・撤去する事業。
- 建物を単に解体するだけに留まらず、解体工事現場で発生する瓦礫などの産業廃棄物を自社の中間処理工場に持ち帰って選別・加工を施すことによって、建築資材などの再生資源として蘇らせてリサイクルするほか、鉄や非鉄などの金属類は別途当社の金属加工工場に持ち帰って選別・加工を行い、金属再生資源として循環させる。当社の環境事業及び金属事業とのシナジーを活かしたサービス提供が可能。
- バックアップとしての環境保全機能を持つことによって、顧客に対する広範な安心・安全という付加価値を提供している。
- 解体事業は、当社グループの成長戦略のエンジンであり、市場規模の拡大に応じて、陣容を拡大させる。

特定建設業 国土交通大臣許可（特-27）第26099号



壁面切断・MRI撤去



プラント ガス解体



プラント ガス解体



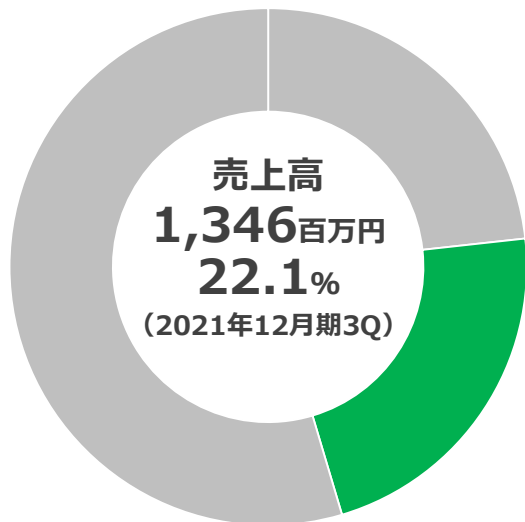
リニアック解体搬出



プラント 重機解体



鉄筋コンクリート造解体



- 環境事業は、産業廃棄物収集運搬及び中間処理並びに再生資源販売を中心に事業を展開。
- 製造業、建設業の顧客から、生産工程や建設現場から発生する廃棄物や使用済みになった機械類などを自社運送部門が収集するほか、当社工場にて受入れを行い、選別・加工を施した後、再生資源として販売。

優良産廃処理業者認定取得



木くずリサイクラー



燃料用一軸破砕機



シュレッダーライン

産業廃棄物処分量 (中間処理)

[破砕・圧縮・切断]

許可品目

本社工場

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. 廃プラスチック類 | 6. 金属くず |
| 2. 紙くず | 7. ガラスくず等 |
| 3. 木くず | 8. 鋳さい |
| 4. 繊維くず | 9. がれき類 |
| 5. ゴムくず | |

阪神事業所

1. 廃プラスチック類
2. 紙くず
3. 木くず
4. 金属くず
5. ガラスくず等



小型家電

使用済小型電子機器

再資源化事業者

認定番号 第7号
(経済産業省・環境省)

一般廃棄物処理施設

設置許可取得

イボキン最終処分場

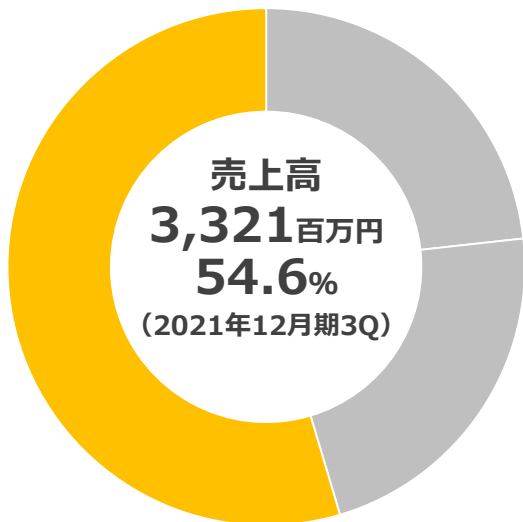


埋立容量 83,042m³

許可品目

1. 廃プラスチック類
2. ゴムくず
3. 金属くず
4. ガラスくず等
5. がれき類

※ 1、4、5の品目は石綿含有産業廃棄物を含む



- 金属事業は、1973年当社創業以来48年に亘る事業であり、当社の安定基盤。
- 様々な産業活動から発生する鉄や非鉄の金属スクラップを発生元から仕入れて、自社工場にて選別・加工し、付加価値を高めて電炉など鉄鋼メーカーに出荷することで、100%リサイクルを達成。



古物商・金属くず商

◆主な設備

- ・ギロチンシャー
- ・ラバンティシャー
- ・三方プレス
- ・シュレッダー
- ・カタンシャー
- ・新断プレス



2021年12月期 第3四半期業績について

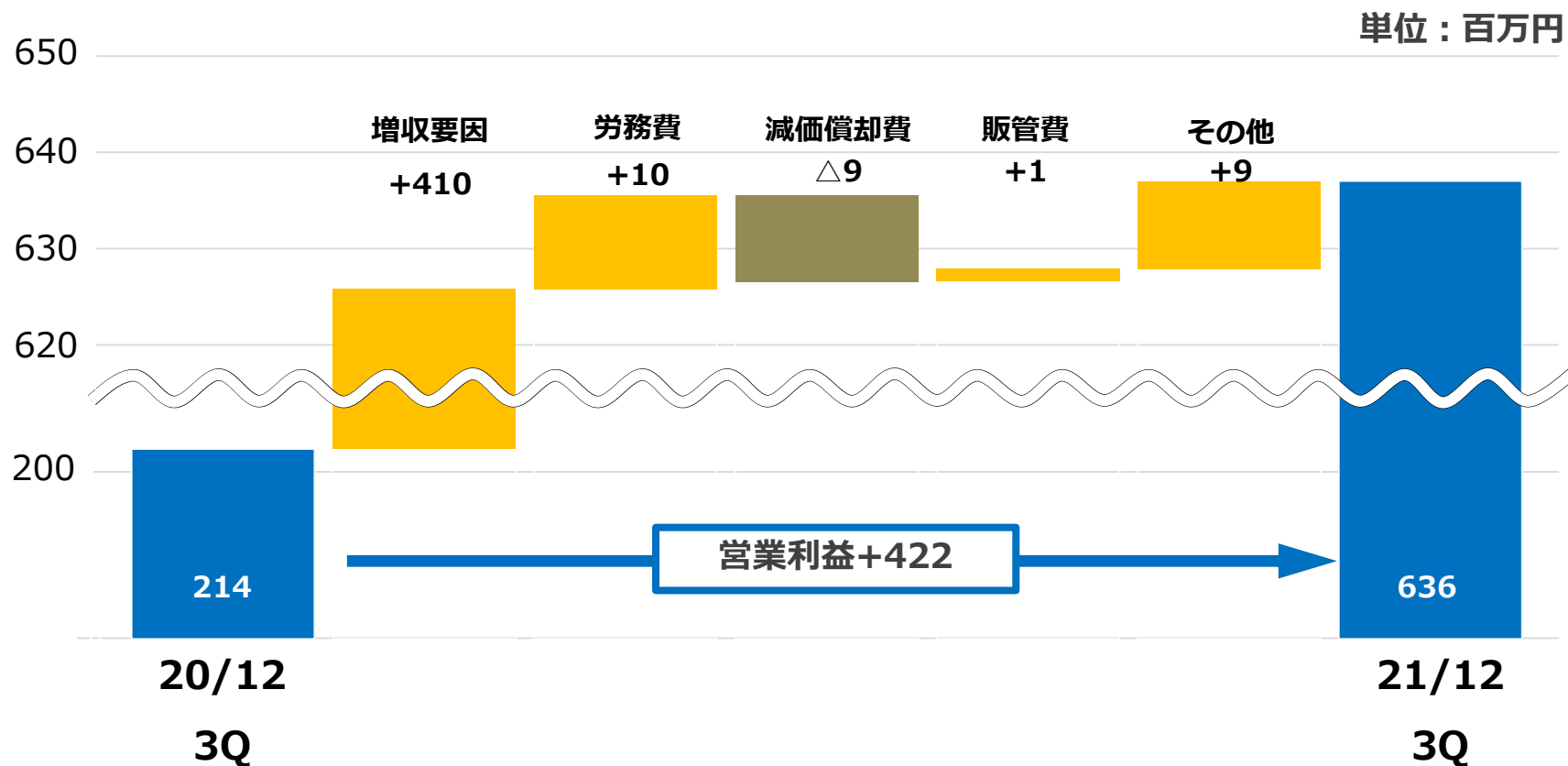
連結損益

単位：百万円

	2020年 12月期 3Q	売上比	2021年 12月期 3Q	売上比	増減額	増減比
売上高	3,860		6,082		2,222	57.6%
営業利益	214	5.5%	636	10.5%	422	197.2%
経常利益	292	7.6%	656	10.8%	363	124.3%
当期純利益	212	5.5%	420	6.9%	208	98.4%

営業利益の増減要因分析（前年比）

年初来の資源相場の上昇、大型解体工事の完工等、前年同期と逆の増収要因が重なりました。また、シュレッダー選別ライン等の設備投資に伴う減価償却費の増加がありました。経費の圧縮を継続させた結果、大幅な増益となりました。



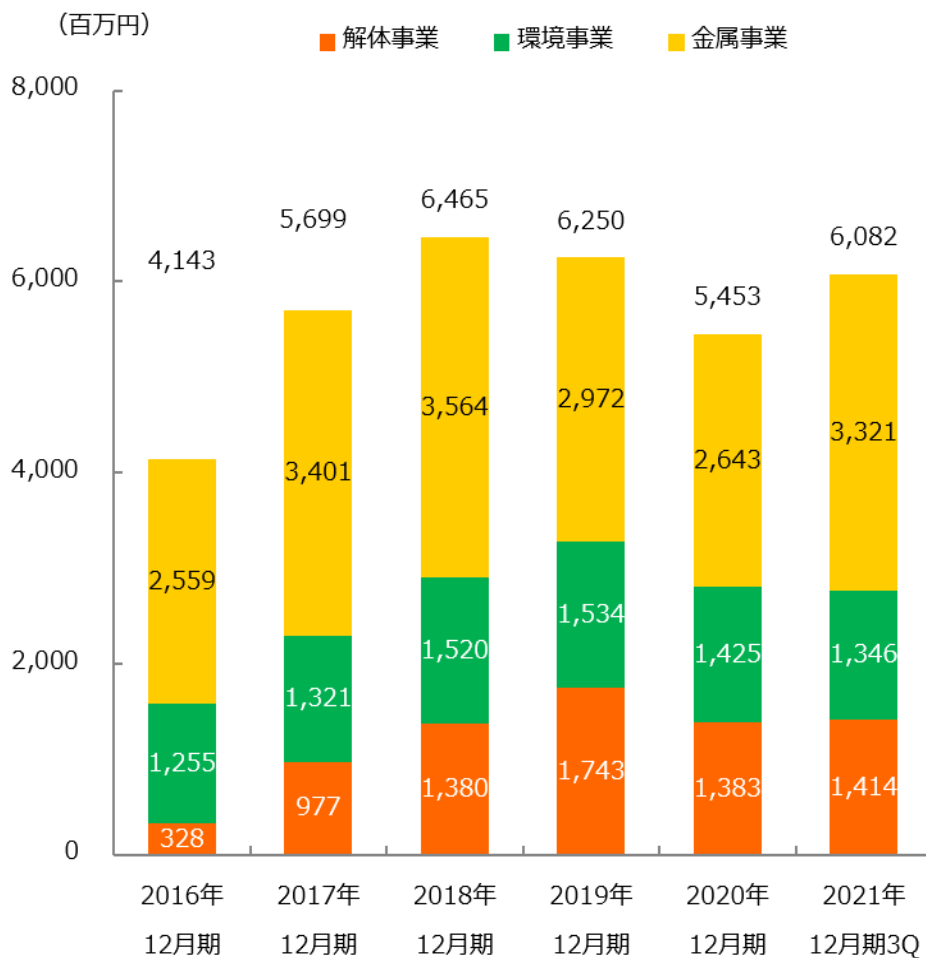
連結セグメント別業績（売上高）

単位：百万円

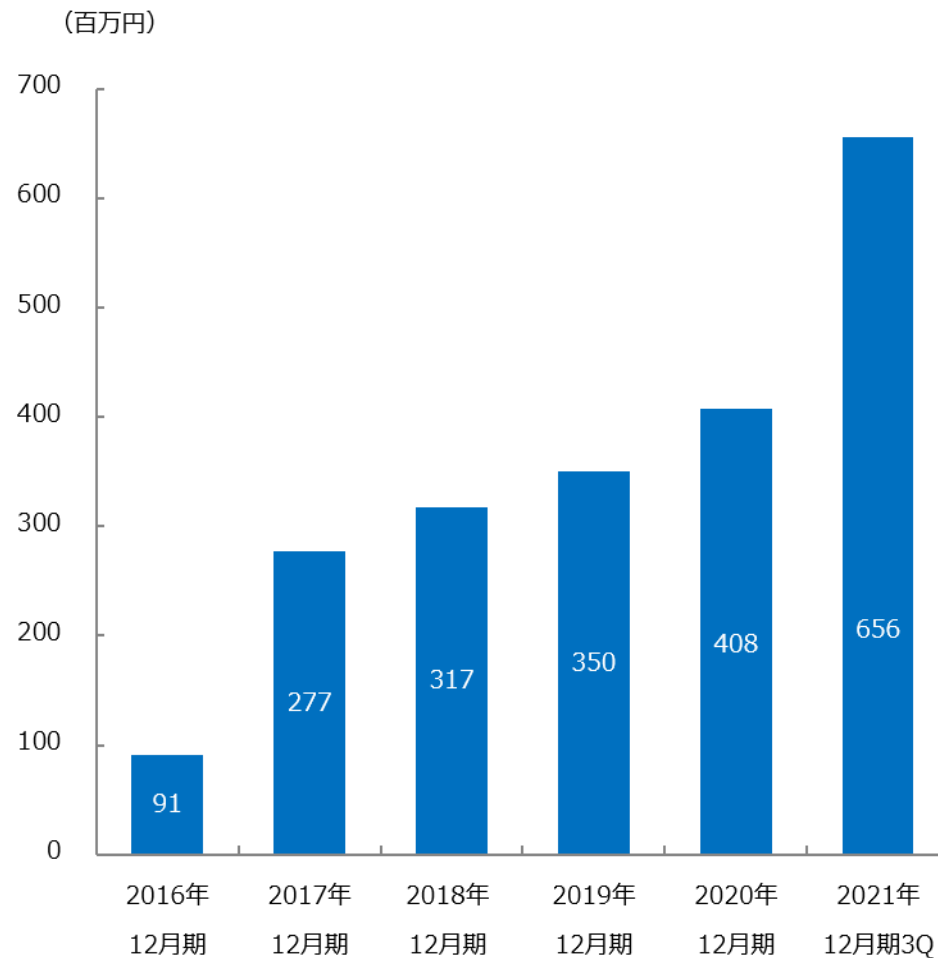
解体事業の完工件数は前年同期とほぼ同じでしたが、大型工事案件の完工が増加しました。金属事業におけるスクラップ取扱量は前年同期に比べ堅調に推移し、また前年度後半から続く鉄スクラップ等相場の上げが影響しました。環境事業についても、取扱高が前年同期に比べ堅調に推移するとともに、資源相場の上昇により伸長しました。

セグメント	2020年 12月期 3Q	構成比	2021年 12月期 3Q	構成比	増減額	増減比
解体事業	924	23.9%	1,414	23.2%	489	52.9%
環境事業	1,034	26.8%	1,346	22.1%	312	30.2%
金属事業	1,900	49.2%	3,321	54.6%	1,421	74.8%
合計	3,860	100.0%	6,082	100.0%	2,222	57.6%

売上高（連結）



経常利益（連結）



連結貸借対照表

単位：百万円

	2020年 12月期末	構成比	2021年 12月期3Q	構成比	増減額	増減比
流動資産	2,724	52.7%	3,158	55.7%	434	15.9%
現金及び預金	1,528	29.5%	2,072	36.6%	544	36.6%
受取手形及び売掛金	607	11.7%	553	9.8%	△ 54	△ 8.9%
固定資産	2,447	47.3%	2,507	44.2%	60	2.5%
有形固定資産	2,004	38.7%	1,906	33.6%	△ 98	△ 4.9%
無形固定資産	28	0.5%	41	0.7%	13	46.4%
投資その他の資産	414	8.0%	559	9.9%	145	35.0%
流動負債	1,525	29.5%	1,608	28.4%	83	5.4%
買掛金	269	5.2%	299	5.3%	30	11.2%
工事未払金	129	2.5%	135	2.4%	6	4.7%
固定負債	648	12.5%	563	9.9%	△ 85	△ 13.1%
純資産	2,998	58.0%	3,493	61.6%	495	16.5%
株主資本	3,048	58.9%	3,418	60.3%	370	12.1%
総資産	5,172	100.0%	5,666	100.0%	494	9.6%

2021年12月期 通期業績予想について

連結損益の予想

単位：百万円

	2020年12月期	2021年12月期	増減額	増減比
売上高	5,453	8,475	3,022	55.4%
営業利益	327	705	378	115.6%
経常利益	408	710	302	74.0%
当期純利益	286	464	178	62.2%

今後の見通しについて

新型コロナウイルスの感染拡大の長期化により、以下の影響が及ぶ可能性があります。

- ・ 解体事業セグメント 解体工事の着工の延期、完工の遅れ
- ・ 環境事業セグメント 再生資源の取扱量の減少
- ・ 金属事業セグメント 資源価格の急落時には、一時的に適正な利幅が取れなくなる

今後、業績への影響を慎重に見極め、連結業績予想の大幅な修正が生じた場合には、速やかに開示します。

今後の事業展開

総合リサイクル企業としての「競争力」を強化

集荷力・処理能力の強化

- 解体事業の営業体制の強化
- シュレッダー後工程の選別ラインの更新
- 混合廃棄物の選別精度向上

ソリューションビジネスの展開

- 解体・環境・金属の各事業を横断する営業体制の構築
- 他社との連携を一層高め、リサイクルだけでなくリユースの循環も創造

信頼性の確立

- 1級監理技術者の増員
- 安全・安心の提供

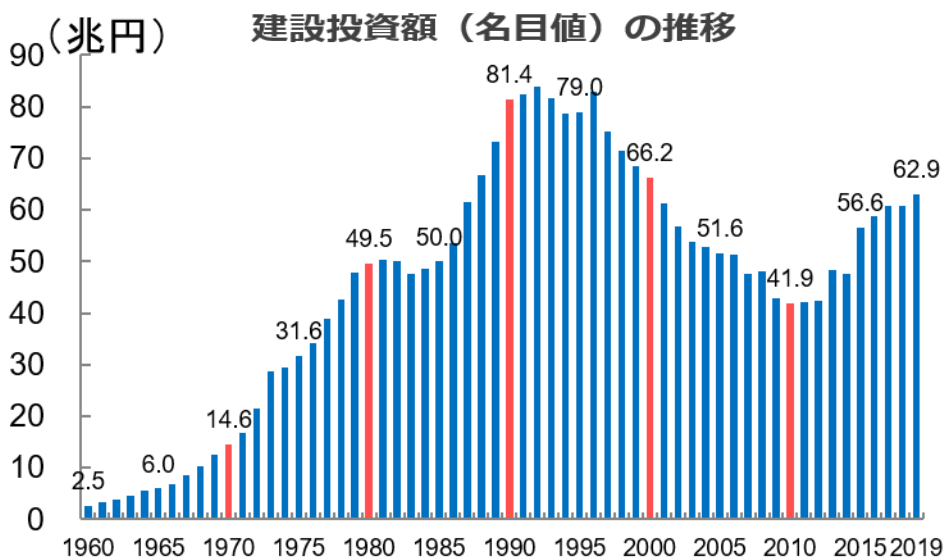
収益性を高めつつ、社会課題の解決に貢献

高まるニーズ

- 高度経済成長期以降（1960年から2000年）に集中的に整備された膨大な建造物が順次老朽化しつつあります。
- 建築物の屋内には、工作機械や医療機械、発電機や各種タンクなど膨大な数の重量物が設置されており、これらも更新の時期を迎えつつあります。
- また、世界的な環境保護の意識の高まりを受け、国内でもよりエコな設備への更新が加速するものと見込まれます。

今後の事業展開

- 従来のターゲットに加え、製鉄所や発電所（石炭火力、原子力、風力）等の解体工事の受注に注力してまいります。
- 重量物撤去部門を拡充してまいります。
- 混合廃棄物（木、紙、プラスチック、金属等多様な物が混在した廃棄物）の選別精度を向上してまいります。



【種子島ロケット発射台】



【屋内での解体作業状況】

コロナ禍の影響により、従来どおりの営業が困難になったため、前年度から新たな取り組みを模索することになりました。その結果、今後の事業展開の礎になる成果が得られました。

コロナ禍において実行した施策

■従来、解体、環境、金属の各営業部門は独自に活動していましたが、コロナ禍をきっかけとして、組織横断的な活動を推進させました。

■解体工事で生じた有価物を工事現場で分別し、付加価値を高めて売却するとともに、現状のまま利用可能なものを他社ネットワークを通じて売却しました。

今後の事業展開

■左記の結果、お客様の「お困り事」に対応する能力が高まりました。
■今後もより総合力を高めるため社内連携を高めます。

■解体工事や重量物の撤去で生じる有価物のうち、現状のまま利用可能なものをリユースさせる循環を作ります。
■このため、幅広いチャネルの企業との連携を深め、情報と技術のマッチングを行います。

1級監理技術者の増員

大型解体工事への積極的な対応

信頼性・優位性

- 当社は「特定建設業」許可を取得しており、1級国家資格を持つ監督員（監理技術者）が多数在籍しているため複数の大型工事案件を元請として同時並行で施工できます。
- 今後ますます増加する解体工事への施策として1971年に制定された建設業の許可に係る28業種区分が45年ぶりに見直され「解体工事業」が新設されました。2019年には完全許可制度が導入され、2021年には一定の要件を満たす技術者制度が導入されました。
- 今後も1級国家資格者を拡充し陣容を強化してまいります。

安全・安心の提供

目に見えない「安心」という付加価値の提供

顧客の持続的なパートナーとしての信頼性の獲得

- 1 業界としていち早く環境マネジメントシステム（ISO14001）取得（1999年）
- 2 「優良産業廃棄物処理業者」認定
- 3 取引先及び協力会社を対象とした「反社会的勢力排除」研修会の定期実施
- 4 処理を受託したIT機器内の情報漏洩を防ぐため、情報セキュリティマネジメントシステムの認証（ISO27001）を取得（2021年）

株主還元

1 株あたり配当金

	2019年12月期 (実績)	2020年12月期 (実績)	2021年12月期 (予想)
1 株 あ た り 配 当 金	30.0円	30.0円	40.0円

(利益配分に関する基本方針)

当社グループは、株主の皆様への安定配当を継続することを基本としつつ、将来の事業展開と財務体質の強化のために必要な内部留保の充実を勘案して配当を行うことを基本方針としております。



IBOKIN

天然資源の採掘から都市鉱山の活用へ

IRに関するお問い合わせ先

管理本部 経営企画室

TEL:0791-72-5088

FAX:0791-72-7400

URL:<https://www.ibokin.co.jp/>

本資料における注意事項

本資料は投資家の参考に資するよう、弊社の現状を理解していただくために作成したものです。

本資料には、弊社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これら将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。

様々な要因により、実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。

投資を行う際には、ご自身の判断において行っていただきますよう、お願いいたします。